

# 避難者ら招き交流

## 奥州♡絆の会 帰郷後の現状報告も

奥州市の沿岸被災地支援組織・奥州♡絆の会（渡辺明美会長）は19日、5回目となる交流会「3・11を忘れない」を同市の会員や市内に避難して

いる被災者を招待。踊りやマジックが披露されたほか、震災から5年が経過した現状を話し合いながら交流を深めた。

交流会は2012年から毎年開催。今日は奥州つばき絆の会会員、市内の避難者、NPO法人復興支援奥州ネット、主催者、来賓ら約50人が参加した。

開会行事で渡辺会長は「被災者のために何かできることはないかと震災から2週間後に絆の会をつくり5年が経過した。会員がともに学び、助け合いながら被災者との絆を深めることができている。自立支援や復興支援

奥州市で暮らす被災者の踊りなどが披露され、参加者が交流を深めた奥州♡絆の会の「3・11を忘れない」



の在り方を共に考え、絆を強いものにした」とあいさつした。

佐藤修孝市議会議長らの祝辞に続いて、陸前高田市広田町の長洞地区に伝わる郷土芸能「広田御祝」が披露された。震災

でしばらく活動が途絶えていたが、地区住民の熱意で14年に復活したとい

かせない踊りを威勢よく舞った。

このほか、奥州市で生活する沿岸出身者の人たちの踊り、大正琴の演奏なども行われた。

奥州つばき絆の会前会長の佐藤久也さん（86）が「あれから5年思うところ」と題して、奥州市で約3年半暮らした思い出と、陸前高田市での生活の現状を紹介した。佐藤

さんは「奥州市の方々の協力がなければ、つばき絆の会の結成はなく、みんなバラバラで、しょんぼりと生活していたに違いない。本当にありがたい。こうして奥州に来ることが楽しみの一つにもなっている」と感謝の気持ちを語った。

今日は水沢公園の桜を見物し、交流をさらに深めた。